

## 平成 28 年度における県立文化施設等の個別事業評価に伴う事業の視察について

## ● びわ湖ホール 歌劇「ドン・パスクワレ」

びわ湖ホール・日生劇場・藤原歌劇団・日本センチュリー交響楽団共同制作

沼尻竜典オペラセレクション

ドニゼッティ作曲 歌劇『ドン・パスクワレ』（全 3 幕）（イタリア語上演・日本語字幕付）

事業内容：指揮はドイツリュウベックでも活躍する沼尻竜典びわ湖ホール芸術監督、演出にはイタリアで活躍するフランチェスコ・ベッロットを迎え、イタリア・ベルガモ・ドニゼッティ劇場の全面協力を得て、イタリアの大スターテノールであるアントニーノ・シラグーザと日本を代表するトップクラスのオペラ歌手を結集し、日本では上演される機会の少ない、オペラ・ブッフアの最高傑作の上演。

会 場：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

視察日時：平成 28 年 10 月 23 日（日）13 時 30 分～17 時 30 分

出席委員：中川部会長、富永副部会長、直田委員、東委員、殿村委員

## ● 近代美術館 企画展「つながる美・引き継ぐ心」

新生美術館見本市「美の糸ローアートにどぼん！ー2016」

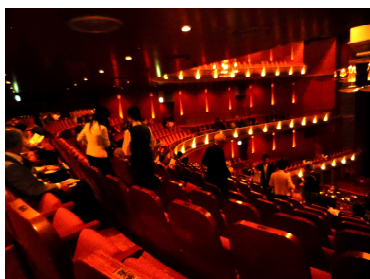
事業内容：現在休館中の琵琶湖文化館に収蔵している国宝・重要文化財を含む貴重な仏教美術品等を中心に約 85 点を一堂に展示。新たな美術館に受け継がれる滋賀の仏教美術を新生美術館の開館に先立って公開するとともに、滋賀の千年の美に思いをはせる企画展示を開催。

事業内容：新たな美術館のコンセプトを視覚化し、子どもをはじめ多くの県民が「美の〔見本市〕滋賀」の魅力を五感で体験し、楽しむことのできるワークショップフェスティバルを、県内で活動する団体・施設等による幅広い参画・協力を得ながら実施。

会 場：滋賀県立近代美術館

視察日時：平成 28 年 11 月 3 日（木・祝）13 時 30 分～16 時 00 分

出席委員：中川部会長、富永副部会長、直田委員、東委員、殿村委員



びわ湖ホール会場 ①



びわ湖ホール会場 ②



美術館会場〔見本市〕①



美術館会場〔見本市〕②



美術館会場〔企画展〕



美術館会場〔意見交換〕

○評価部会委員による外部評価

事業名：びわ湖ホール 歌劇「ドン・パスクワレ」

定性評価	<b>重点施策1</b> 文化による本県ブランド力の向上と国内外への効果的な発信  <b>重点施策2</b> 地域で継承されてきた文化的資産の発掘・保存・活用	評価すべき点	びわ湖ホールの発信力を示すプログラムであったと思う。キャスティング、舞台制作等、水準の高さを示した。
			シラクーサ1人の才能が目立ち、他の出演者がこれにちょっとついて行けなかったという印象が残る。しかし、このシラクーザのおかげで、国内外への効果効果的な発信という点では成功したというべきである。
			歌唱や演出がすばらしく、洗練された舞台であった。上演が希少な演目を、滋賀県から発信できたことは、高く評価できる。
			日本にも、といえば大げさか、びわ湖ホールにおいてオペラがついに定着したという感想を持った。 沼尻監督の企画力、指導力に依るところが大きいと思う。 来場者は、アンケートでも県外の人が多いと推察されるが、広域的にアピールしていけるだけの実力を備えてきたことは大きな成果である。 もっと貪欲に、全国・世界から客を集めるという気持ちを持つことも大切だろう。オペラだけでなく難しければ、びわ湖、仏像等歴史資源、エコロジー、などなどソフトパワーの組み合わせで。
			質の高いオペラを上演することそのものが「びわ湖ホール」と滋賀県の文化の質の高さを示すことに繋がっており、大変意義深いと思います。
	改善が必要な点		約80%程の入場者で、勿体ない感じがした。チケット販売か、PR面での工夫が必要。
			上記の裏返しのようなことになるが、県内の観客数が20パーセントを切っていて、たいへん気になるところである。
			2館だけの公演ではなく、水準から言ってもっと多くの館との連携が取れたらいいと思った。藤原歌劇団のネットワークなどを活用できないか。 アンケートでは、高齢の方が多く、来場回数も多い人が回答者に多かった。いわば見巧者がたくさん来られていることを鑑み、機会があればこのような方の感想や意見を聞き取することを考えてはどうか（茶話会などを通して）。
			滋賀県内に限らず、オペラへの関心度と、質の高さを見極められる人が減っているように思います。「びわ湖ホールでなぜ、オペラを上演するのか」「どれくらい上質なのか」をわかりやすく周知する広報ノウハウが必要だと思っています。
	<b>重点施策3</b> 子ども・若者が本物の文化に触れる機会の充実  <b>重点施策4</b> 若手芸術家等の育成・支援  <b>重点施策5</b> 文化活動を支える人材（アートマネージャーなど）の育成・支援	評価すべき点	若手芸術家育成の面で、共同制作の取組は効果的と思う。
			藤原歌劇団合唱部と声楽アンサンブルのコラボは、びわ湖ホールのオペラ歌唱のレベルアップを促し、声楽アンサンブルのさらなる活躍につながると思われる。
			ソリスト、合唱団など若いアーティストを育ててきた成果が徐々に出てきていると思われる（今回の公演も他流試合の様相を呈していて、今後に繋がると考えられ、興味深い）。 人（アーティスト）を育てるというのも、びわ湖ホールの大きな役割だろう。いわば、アーティストの「ふるさと」のような所になるといいと思う。
		改善が必要な点	びわ湖ホールで小中学生の体験学習に力を入れておられることは大変評価すべきことでこれからも継続してほしいと思います。（「ドン・パスクワレ」について実施されたか否か、存じておりませんが、全体として推進すべき取り組みと思います）
			子ども、特に若者を呼び寄せる工夫はどこにあったのか、不明。 アート・マネージメント研修は、県内の市町のニーズをふまえ、それらと連携して行すべき。プログラムの点検、評価、見直しが必要。
			ホールを見渡しても、観客の中に若者がほとんどいない。  アンケートによると、若い世代の回答がほとんど無かった（来場していないということでもなさそうだが）。若い世代にオペラの面白さをアピールすることを考えてほしい。（アンケート等で意見をもっと把握してほしい） 若手芸術家の登用を拡大する工夫はないか（びわこホールだけではないが）。仕事がないと人は育たないのだから。  劇場の連携は素晴らしいことですが、滋賀県やびわ湖ホールとして、若手芸術家がどれほど存在して、「アートマネージャー」がどんな役割を果たしているのかを積極的に知らせないと、これからの人材不足の時代に、人材確保が困難になると思います。文字だけでなく、若者が馴染みやすい動画によるPRも必要ではないでしょうか？

<p><b>重点施策6</b> 新しい豊かさを実感できる文化芸術活動の推進</p> <p><b>重点施策7</b> 「美の滋賀」づくりの推進</p> <p><b>重点施策8</b> 自律的な文化活動の促進</p> <p><b>重点施策9</b> 文化活動の環境の整備</p>	評価すべき点	<p>(県)都市の文化発信装置としての役割は十分に果たしている。</p> <p>実際に見たわけではないが、関連講座・イベントをいくつも開いておられるようで、まずは評価できる。回数・内容両面でますます、充実実してゆかれるとよい。</p> <p>事前の関連イベントが大変充実している。無料のものもあり参加しやすい。</p> <p>オペラが生活に根付いている人は必ずしも多くはないだろうが(イタリアのようにはいかない)、時にはちょっとした会話の話題になるようであればいいのだが。そのためには、オペラを余り格式高く位置づけるのではなく、生活の延長上の「輝く時」のように受け取られるといい。びわ湖ホールでのオペラの中の歌の一つ二つでも街中で口ずさんでもらえるようなシカケとか(浅草オペラ風に?!)。</p> <p>美しい琵琶湖が一望できる「びわ湖ホール」で上質なオペラが堪能できるという環境は他の劇場にはなく、滋賀県ならではの魅力だと思います。</p>
	改善が必要な点	<p>県民文化政策の拠点としての役割を、より強力に果たして欲しい。</p> <p>アンケート結果からみると、滋賀県民の鑑賞者が少ないように思われる。</p> <p>空席が出たら(出そうなら)、若い人に廉価(場合によっては無料でも)で見てもらう工夫をしたかどうか(やっているかもしれないが)ができないか。高校生などに、も。オペラは総合芸術と言われるが、劇場内の総合性と劇場外の総合性(いろいろなオペラをやっているということ自体をドラマ化するストーリーをつける、アマチュアのオペラ(もどき)がどこかで上演されているとか)を組み合わせると、何か新しいものが生まれるような気がする(気のせいかもしれませんが)。</p> <p>上記の滋賀県オンリーワンの文化鑑賞環境について、もっとPRすべきだと思います。作品の質や他の劇場との連携はもちろん大切ですが、そればかりに集中すると、せっかくのオンリーワンの魅力が伝わらないままになってしまって、もったいないと思います。</p>
総 評	評価すべき点	<p>びわ湖ホールの定評の高さ、演目の質の高さは大いに評価する。</p> <p>「びわ湖ホールはオペラ」という定評がますます強くなってきているようで、これはある程度評価できる。</p> <p>国内外からのキャスティングなどが上手く作用し、非常に充実した舞台であった。観客の満足度が高いこともうなずける。魅力ある文化の発信基地であってほしいという期待に応えている。</p> <p>【上演の中味についてのコメントです。適当な欄が無かったので】 舞台装置 奥を部屋の門にした設定は、間口が広くとれ、舞台上の動きを大きく見せ、効果的である。 第三幕で、暗転後、部屋の壁を瞬時に一新した演出は、さりげなく場面交替を演出していた。それまでの壁は各種絵画が所狭しと飾られており、金満家の邸宅のイメージを構成していたが、一転野外の庭の場面と化したのは効果的に思われた。 歌もさることながら、演出の妙を感じる舞台であった。オペラbuffaとしての雰囲気作りを、装置はもとより、合唱団の使い方に手腕が見られた。歌わない場面における、コミカルな所作はなかなかの演出であったし、パントマイムのアクションは随所で笑いを誘うものであった。演出とともに、演技も高く評価したい。 歌手は、特にドン・パスクワレは、声量、表情、演技ともに高い水準を示した。扮装はこれまで多かった「ファルススタッフ」タイプとは異なり、70歳を過ぎた老人には見えにくかったが。</p> <p>作品の素晴らしさには申し分なく、「びわ湖ホール」で上演する意義は大変大きいものと思います。滋賀県内でこれほど上質な文化に触れることができる文化環境は、これからも大切に、さらに充実させてほしいと思います。</p>
	改善が必要な点	<p>県から市町への中・小ホールの移管以後、県の市町文化行政への関わりの低下、ネットワーク形成への無関心、補完的支援の希薄さが極立ってきている。びわ湖ホールも教育機関、福祉機関等との連携を意識し、県内市町ホールのセンター機能を果たして欲しい。</p> <p>県内の観客数の増加など、いくつかの考慮すべき点もある。</p> <p>空席があったことと、滋賀県民の鑑賞が少ないことが残念である(滋賀県民はアンケートを書かないのか?とも考えたが、ロビーでの叶匠寿庵さんの売れ方を見ていると、やはり県外の鑑賞者が多いのかと思う)。事前の関連イベントに初見者(特に滋賀県民)に来ていただき、そのまま本公演に来ていただくという方策が取れないものか。</p> <p>最後に、奸計でいたぶられたドン・パスクワレが、医師マラテスタ、ノリーナ、エルネスト達を最後に許すことになるが、突然の変心に見え、やや唐突感があった。これは、少し前から、計略をかけられていたことを見抜き、騙されたふりをしながら大団円に突入すると行った布石を打っておく演出にすると納得感が出たように思う。 字幕 大体は適切な表現だったが、一部直訳風で違和感があった。大胆な意識でいいのではないか。</p> <p>関係者の皆さんの関心が「作品の質」にばかり向いているような気がします。そのため、滋賀県オンリーワンの作品鑑賞の環境には、ほとんど注目されていないのがとても残念です。また「他の劇場との連携」はこれかも推進すべきですが、「他と同じものが滋賀県でも楽しめる」よりも「同じ作品でも、びわ湖ホールで鑑賞すると琵琶湖の美との相乗効果で心が洗われて、より深く満喫できる」といったオンリーワンの魅力発信にも注目して欲しいと思います。</p>

○評価部会委員による外部評価

事業名：近代美術館 企画展「つながる美・引き継ぐ心」

定性評価	重点施策1 文化による本県ブランド力の向上と国内外への効果的な発信	評価すべき点	滋賀県に数多く保存されている「仏教美術」を県内外に知らせるよい機会の一つとなった。
			滋賀県に優れた文化財がいかに多いか、また、琵琶湖文化館がいかに重要な施設であったを一覧できる展覧会であった。
	重点施策2 地域で継承されてきた文化的資産の発掘・保存・活用	評価すべき点	琵琶湖文化館のすばらしい収蔵物を引き継いだこと。このような文化資産を維持してきたことを県民をはじめ広く知らしめたこと。 重文クラスのものがたくさんあり、感心した。 華籠(けこ)、空也像、蕭白の絵、その他仏像etcがすばらしかった。 地域の社寺から寄託された収蔵品を、何かの機会に一時地域に戻し、催事や祭、地元の人の供覧に貸しているとのこと。県の文化財のセンターとしての役割を果たしていることはたいへん良いことだと思う。
			滋賀県に深い文化の歴史があることを”見える化”した素晴らしい企画展だと思います。
	重点施策3 子ども・若者が本物の文化に触れる機会の充実  重点施策4 若手芸術家等の育成・支援  重点施策5 文化活動を支える人材(アートマネージャーなど)の育成・支援	評価すべき点	滋賀県に数多く保存されている「仏教美術」をもっと自信をもって宣伝してよかったかもしれない。
			ポスターがわかりにくい。掲示される表面だけを見ると、「琵琶湖文化館」をご存知ない方には、何を展示するのかわからないのではなかろうか。また、琵琶湖文化館が片隅に写っているが、これでは「謎の城」である。
		評価すべき点	滋賀県所在の仏像美術等の価値がまだ知られていないように見受けられる。価値自体のPRとともに、ブツゾーのイメージを県民に浸透していく何らかの方策を検討されたい。(仏像のユルキャラをつくるという意味ではない) バスツアーは大変好評だったようで、このような企画を持続させることはできないか(館が直接実施するのではなく旅行社などとタイアップするなど)。このアイデアは、他の文化資源についても応用ができそう。現代美術なども含め、ツアーを組めるようなネタがあるのではないかな。 どぼんで、仏像のお面を被ったら入場無料とは、いいアイデア。どぼんに比べるとやや入場者は少なかったと感じられた。この両者をもっと工夫してつなぐことができれば、よかった。
			滋賀県民の誇りに繋がる企画展なのに、あまり衆知されていなかったのが残念です。まずタイトルをもっとわかりやすくした方が良かったのではないのでしょうか。
		評価すべき点	展示品に関するたいへん的確な説明を行う学芸員の配置がなされていた。美術館と寺社を結ぶバスツアーという企画は、参加できなかったので想像するしかないけれども、企画を立てること自体がたいへん興味深く意義あるものに思われた。
			「たいけんびじゅつかん」で、子どもたちの参画を促そうという試みがよい。
		改善が必要な点	どぼんで、仏像のお面を被ったら入場無料とは、いいアイデア。どぼんに比べるとやや入場者は少なかったと感じられた。この両者をもっと工夫してつなぐことができれば、よかった。(再掲) 若い親層や子どもなども。いつつられて入場するという仕掛けもアリだろう。百人に一人でも、見てびっくりする人が出れば上々ではないか。
			滋賀県内に若手芸術家やアートマネージャーを育成するためにも、とても理想的な企画展。鑑賞することで、「自分も滋賀県の文化を担おう」と思うキッカケになると思います。
		改善が必要な点	子ども・若者ととくに意識するべき展示企画であるのかどうかわからないが(私自身はそう思うので)、もう少し彼らの関心も引くような配慮があってもよかった。
			アンケートを見る限り、若者が少ない(若い来館者は、いわゆる「仏女」さんたちか?)。
重点施策6 新しい豊かさを実感できる文化芸術活動の推進  重点施策7 「美の滋賀」づくりの推進  重点施策8 自律的な文化活動の促進  重点施策9 文化活動の環境の整備	評価すべき点	評価すべき点	「美の滋賀」の考え方をよく理解し、これを見る者に伝えようとする姿勢が見られた。
			仏像などは、単なる展示品ではなく、滋賀県民の生活文化(信仰生活)のなかに息づいている。多彩な関連イベントの開催によって、イベント参加者にこのことを改めて実感していただくことができたのではないかな。
	改善が必要な点	改善が必要な点	所蔵している美術品をアウトリーチする(県内で巡回する)可能性は。保存環境の問題があるとは思いますが。(実際に行われているようなので、拡張することもできるのでは)
			「美の滋賀」づくりの原点と歴史がよくわかりました。深い文化の歴史があってこそ、基本構想に組み入れられるのだと理解できました。
	改善が必要な点	改善が必要な点	県民の生活文化と仏像などが、深い関連をもっていることを示す解説などがあってもよいかもしれない。
			これをきっかけに、県内の埋もれている(保管の不完全な)資産を調査し、修復や保存の手立てをとってほしい。
	改善が必要な点	改善が必要な点	「美の滋賀」というわかりやすいビジョン＝ストーリーを提示して欲しい。下欄の「総合性」(あちこちで言及しているが)のキーワードであるのだろう。
			「美の滋賀」づくりの原点であり、滋賀県の文化の歴史と次世代への継承が必要な意味を実感できる企画展だったのに、その主旨がほとんど伝わっていなかったのが残念です。

総 評	評価すべき点	滋賀県が誇りとする文化財の展示として、十分に評価できると思う。担当学芸員の力量の確かさを感じた。
		琵琶湖文化館というものが存在した、また今後は新生美術館に引き継がれるということ、その意義を知ってもらい、こじんまりしているがよい企画であった。
		厳選されたであろう文化財が展示され、圧倒された。仏教美術の充実が、滋賀県の特徴の一つであることが、改めて発信できたと思われる。
		滋賀の(歴史的)文化資産を、総合的に価値づける方策が欲しい。情報、学術、歴史(ストーリー)、地域との関係、維持・活用策、他の資産とのつながり……
		滋賀県の文化の奥深さ、「美の滋賀」の本当の意味、そして「近代美術館」のプレゼンスがよく理解できる企画展でした。いくら文字で伝えてもわからないことが、このように”見える化”されることで実感できるため、非常に意義深い企画展だったと思います。
	改善が必要な点	開催期間に比して、目標・実績ともに押さえすぎないだろうか。アクセス条件などのハンディは理解できるが、館全体としてのPR戦略を、根本的に考え直すべきではないだろうか。
		継承という館側の決意は伝わったが、一般客向けの広報に工夫の余地がある。
		この企画展の醍醐味がほとんど伝わっていなかったのが残念です。そして伝えるためには、まずタイトルを変えるべきだと思います。「史上初！滋賀県〇〇〇年の文化 今だけ〇〇日公開」といったようなダイレクトで、少し刺激的なタイトルでアピールしないと現代人には伝わりません。
		文化は奥深い彷彿するような表現を使わなければ深みが出ないことはわかりますが、現代人はインターネットの影響で即物的な理解しかできない傾向にあります。
		良い企画展ほど、「伝え方」に現代の傾向を考慮すべきだと思います。

○評価部会委員による外部評価

事業名：近代美術館 新生美術館見本市「美の糸ロートにどぼん！ー2016」

定性評価	重点施策1 文化による本県ブランド力の向上と国内外への効果的な発信  重点施策2 地域で継承されてきた文化的資産の発掘・保存・活用	評価すべき点	県内外に対して、滋賀県のとりわけ若手芸術家のありようを示している点で、一定程度の評価ができる。  滋賀県の伝統産業や、近代美術館の展示(仏教美術)にかかわる企画が組み込まれており、滋賀ブランドを発信するためのプログラムが練り上げられていた。  今回で3回目ということだが、各ブースのタイトルもいいのではないかと。いわく「極楽きつぷ」「さよなら煩惱」「楽園メガネ」「2D仏像」「くむんだー」「夢中屏風」「これが“かみわざ”」等々地元の企業・団体(工務店等)と連携していたのも、互いに活性化し合うというメリットが感じられた。⇒朝日新聞の記事『大工さんの心 はぐくむんだー』(11/28夕刊)。これらは、昨年度の「美の滋賀」における成安大での事業とつながっており、地域資源のアート化、周知化、産業化という流れが浮き上がる。また、逆に、産業をアート化して、人々を呼び込み参加させ理解させ、ともに育てるという気風も醸成できる。企画展との連動は、相乗効果が見られた。「仏像」というテーマが、何でもあつ的に広がりを持っており、よかったのかもしれない。(仏様の功德？)  人々の関心を集めるタイトルが素晴らしく、それにマッチした文化体験が満載な内容が多くのファミリーの心を射止めたと思います。目的どおり、特に子供たちには「美の糸口」がつかめたのではないのでしょうか。
		改善が必要な点	単発イベントに終わらず、文化的資産に継続的に関心をもってもらうための方策が必要である。  この展覧会の直後に川崎市で、木造のアート・ジャングルジムで火災が発生し、子どもが亡くなるという痛ましい事件が起こった。滋賀では危険性はなかったものの、こういうイベントでの安全性に対する配慮、事前のアセスメントの必要性を認識させた。  素晴らしい取り組みなので、今後も継続していくべきと思います。また、滋賀県は広いので、県民が平等に楽しめるように、県内各地で開催する計画が必要だと思います。
	重点施策3 子ども・若者が本物の文化に触れる機会の充実  重点施策4 若手芸術家等の育成・支援  重点施策5 文化活動を支える人材(アートマネージャーなど)の育成・支援	評価すべき点	多くの子どもの関心をもくプログラムが用意されており、とりわけ館外の芝生の上での、「くむんだー」や「巨大シャボン玉」などのプログラムに家族連れ姿が多くみられた。和紙や和ろうそくなど伝統に目を向けたものが入っているのもよかった。  皆が楽しんで参加している姿が印象的であった。参加者があれほど楽しんでいる姿を見れば、出展作家さんの大きな励みになると思われる。 前代未聞の入場者数。子どもの数も多かった。皆が、楽しんでアートを体験していた。特に、子どもたちが自発的に参加しているのが感じられた。 実行委の皆さん、館のスタッフの努力を多量したい。実行委の、公立美術館を超えた、自由なまた積極的な姿勢が、この成功をもたらしたと言える。 すべてのブースで、アートに引きつける(どぼん)工夫・アイデア・熱意を感じられたし、それぞれが、大人でも充分楽しめるシカケがあった。仏像展との連携も一部で図られていた。この工夫もよい。  幼い子供たちが夢中になってアートに親しんでいる様子を見て、今後の若手芸術家やアートマネージャーの育成にも効果的なイベントだと実感しました。
		改善が必要な点	プログラム全体としてのまとまりという点では、それがあまり見えなかった。  想定外の来客数に対応できる体制が必要である。  アンケートにある。 企画展との連携にもう工夫を。  体験とともに「美の滋賀」の「美」を実感できる取り組みがあれば、さらに意義あるイベントになると思います。
	重点施策6 新しい豊かさを実感できる文化芸術活動の推進  重点施策7 「美の滋賀」づくりの推進  重点施策8 自律的な文化活動の促進  重点施策9 文化活動の環境の整備	評価すべき点	近代美術館の従来の客層とは異なる人々が、将来的に新生美術館の来客層となる可能性を感じさせた。  シャボン玉が、「ワケノワカラ彫刻」を、なにかしらそこにあってもいいものとして感じさせる、というような効果も生み出せる。アートの効用であろう。 県庁の人の出店は評価したい。仏像お姉さんは人気だったそう。各市町からの出店を募集すれば。  来場しているファミリーの楽しそうな表情からも、文化による新しい豊かさの実感の場になっていることがわかりました。また帰って大阪に住む子持ちの男性にイベントの写真を見せたところ、「滋賀県っていいな。引越そうかな」と言っていました。 幼い子供を持つファミリーにとって、理想的なイベントだったと拝察されます。
		改善が必要な点	とりわけ若手芸術家が「美の滋賀」づくりという点で、これをどう理解し、どのような貢献をしようとしているのか、あまり見えてこなかった。  参加者を美術館内の展示に誘導するのが難しかったか。  アンケートにある。 他の場所での開催を、地域のアート団体と連携して実施を模索しては。 大規模ではなくてもいいので、全県的に地域版「アートにどぼん！」を開催することも考えられる。市町と地域のアート団体と協働して、これをプロデュース人材をつくっていくことも大切だ。そういう場を提供する意味もある。若手アーティストが活躍できる場でもある。  体験できることが大きな魅力であることから、滋賀県各地で同様のイベントを開催して全県民が醍醐味を実感できる仕組みづくりが必要だと思います。 滋賀県の独自の取り組みとして、移住促進やブランド力強化にもつながっていくと思います。

総 評	評価すべき点	多くの親子連れで賑わい、見ていても楽しい取組でした。美術館が単なる展示会場ではなく、教育施設である事を示したと思います。特に、水準が高く、有能さで定評がある学芸員諸氏が、直に人々と交わり、ふれあう事が有意義でした。
		4年後に開館する新生美術館の、少なくとも一部(とりわけ「美の糸口」というキャッチフレーズ)を実感させる点など)見せる点で、当初の目的はある程度達成できた。
		よく練り上げられたプログラムであった。
		県内各地で開催されている“どぼん”が滋賀県のブランドになるといいなあ。(将来の夢)
		ファミリー層の心に刺さるユニークなタイトルと、子どもが喜ぶ体験講座が満載の内容で、「美の滋賀」を県民の皆さんに伝える理想的なイベントと思います。 これからも継続することで、「滋賀県に住んでよかった」と実感できる県民が増えるとともに、子育て世代にアピール力の強いことから、子育て世代の移住促進にもつながると思います。
	改善が必要な点	館の責任ではありませんが、アクセス経路の案内、サイン等、アプローチへの配慮が欲しいものです。特に、直近の駅での案内情報不足は致命的です。
		同時開催されている仏教美術の展示との関係があまり宣伝されていないのが多少残念であった。
		新生美術館での展示や、滋賀県の伝統産業等に継続的に関心をもってもらうための方策が必要である。
		来場者アンケートを参考にして下さい。いい意見が多いので。改善が必要な点は、ほぼ尽くされている。
		いつときのイベントに終えるには、あまりにも惜しいと思います。 近代美術館が新しく生まれ変わるときに誕生した滋賀県ならではのイベントとして、県内各地での開催や新生美術館オープン後も継続し、これからの歴史を刻むものへ育てていかれることを望みます。